

ベネズエラを支援しよう

【訳者注】このジョン・ピルガーに対するインタビュー記事を、ベネズエラのクーデタ失敗を論じたアンドレ・ヴルチェックの、「制裁はアメリカにこそ課せられるべきだ」と、セットで読まれることをお勧めする。ほとんど誰も知らなかった事件だが、ベネズエラ（南米一般）を通じて、現在の世界情勢がわかってくる。このインタビューの最後の“左翼”についての応答は、我々に問題を投げかける——左翼とは何かを我々は知っていたのだろうか？

By John Pilger and Michael Albert

February 16, 2015 (Information Clearing House)

アルバート：なぜアメリカは、ベネズエラ政府の転覆を狙うのですか？

ピルガー：そこには偽らぬ原則と力学が働いている。ワシントンがベネズエラ政府を追い出したがるのは、それが、この地域についてのアメリカの計画に協力しないこと、それにベネズエラは、世界最大の証明された石油埋蔵量をもっていて、その石油歳入を民衆の生活改善のために使っているからだ。ベネズエラは、歴史を通じて略奪者だったアメリカによって荒らされたこの大陸の中で、社会改革の野望の一つの根源であり続けている。ある Oxfam 報告が、かつて、ニカラグアのサンディニスタ革命を、「よい例の脅威」と評したことは有名だ。それが、ウゴ・チャベスが最初の選挙に勝って以来、ベネズエラについても言えるようになってきている。ベネズエラの“脅威”の方がもちろん、より大きい、それは小さくて弱い国ではないからだ。この国は豊かで影響力があり、中国にはそのようなものとして見られている。ラテンアメリカの何百万という人々の生活に、この顕著な変化が起ったことが、アメリカの敵意の中心にある。アメリカは過去 2 世紀にわたって、ラテンアメリカの社会的進歩の、宣言されない敵だった。誰がホワイトハウスにいようと関係なかった——バラク・オバマでもテディ・ルーズベルトでも。アメリカは、自国の人民を先に考え、アメリカの要求を容れて圧力に屈することを拒む、政府や文化をもつ国家を、許そうとしないのだ。資本主義のベースをもつ改革主義の社会民主国家——ベネズエラのような——を、世界の支配者たちが許すはずはない。許すことができないのは、ベネズエラの政治的独立であり、完全な屈従だけが許される。チャヴィスタ・ベネズエラ（ベネズエラ・チャベス党）の“生き残り”が、普通のベネズエラ人が自分たちの選んだ政府を支持していることの証拠だ。最近ここを訪問したとき、それは私にはっきりわかった。ベネズエラの弱みは、政治的“反対派”——“東カラカス一味”と私は呼びたい——が、決定的な経済的権力をもつ強力な財閥を代表し

ていることだ。この権力が縮小されたときにのみ、ベネズエラは、外国に後押しされた、しばしば犯罪的な政権転覆の、絶えざる脅威を振り切ることができる。

アルバート：アメリカは、すでにどんな方法を使っていますか？ そして、ボリバル共和国人（ベネズエラ人）を追い出すのに、彼らは何を使うとあなたは予想しますか？

ピルガー：通常の売国奴とかスパイといった者たちはいる。彼らはニセ情報のメディア芝居と共に出入りしている。しかし主たる敵はメディアだ。あなたは、ベネズエラ海軍将官で、2002年にチャベスに対するクーデタを企てた一人が、彼の短命な権力期間中に、「我々の秘密兵器はメディアだった」と自慢らしく言ったのを覚えているかもしれない。ベネズエラのメディア、特にテレビが、あのクーデタでは活発な参加者で、政府支持者たちが橋から抗議者の群衆に向かって発砲している、などとウソをついた。虚偽のイメージと見出しが世界をかけめぐった。ニューヨーク・タイムズがこれに加わって、民主的な“反米”政府の転覆を歓迎した——この新聞のいつものことだが。似たようなことが、昨年カラカスで、邪悪な右翼の一味が“抑圧されている平和な抗議者”として、称えられたときにも起こった。これは間違いなく、「全米民主主義基金」——使いやすいCIA クローン——のようものによって公然と援助された、ワシントンの後押しする“カラー革命”の始まりだった。それは、ワシントンが昨年、ウクライナで見事にやってのけたクーデタに、不気味に似ている。キエフと同様、ベネズエラでも、“平和な抗議者たち”が政府の建物に火をつけ、狙撃兵を展開し、西側の政治家やメディアはこれを称えた。その戦略はほとんど確実に、マドロ政府を右へ押しやり、民衆の基盤を失わせることだ。政府を独裁的で資格のないものとして描くのが、ベネズエラや、アメリカ、イギリス、ヨーロッパでの、新聞記者やテレビ報道者の間の、長年の常識になっている。一つの最近のアメリカの“物語”は、あるアメリカの科学者がベネズエラに爆弾の作り方を教えようとして投獄された、というものだった。そこに含まれる意味は、ベネズエラは核テロリストを擁している、ということだ。実は、濡れ衣を着せられたその物理学者は、ベネズエラとは何の関係もなかった。

こうしたことすべては、チャベスへの執拗な攻撃を思い出させるもので、そのそれぞれが、西側の“唯一の正当な道”から外れた者たちに対する、特定の敵意によるものだ。2006年、イギリスの「チャンネル4」ニュースが、ベネズエラ大統領がイランと一緒に核兵器を作ろうとしているという、馬鹿げた話を巧妙にでっち上げて非難したことがある。ワシントンの通信員 **Jonathan Rugman** は、貧困をなくそうとする政策を嘲笑して、チャベスを不気味な道化役者のように言い、一方、戦争犯罪者であるドナルド・ラムズフェルドが、チャベスをヒトラーに譬えても意に介さなかった。BBC も全く変わらない。英国のウエスト・オブ・イングランド大学の研究者たちが、BBC が10年にわたって、組織的な偏見によってベネズエラについて報道してきた事実を研究した。彼らは304件のBBC報道を調べ、この

政府のポジティブな政策に少しでも触れたのは、そのうち 3 回だけだったことを明らかにした。BBC にとって、ベネズエラの民主的な新政策、人権の法制化、食料プログラム、ヘルスケア政策、貧困縮小政策などは、存在しなかった。「ミッション・ロビンソン」と呼ばれる人類史最大の読み書き能力プログラムには、一言も触れられなかった。この省略による悪意ある検閲は、その埋め合わせに、ベネズエラ政府は麻薬ディーラー集団だというような、露骨な作り話を報道した。これは別に新しいことではない。キューバが長年にわたって、誤った姿に描かれ——かつ攻撃されてきた——そのやり方を見ればよい。「国境なき報道記者」という刊行物が、自由な報道という各国の主張に基づいて、国別の世界的なランキングを発表したばかりだ。アメリカは 49 位にランクされ、マルタ、ニジェール、ブルキノ・ファスコ、エルサルバドルに後れを取っている。

アルバート： どうして現在、国際的に、クーデタを押し進める好機のようになっているのでしょうか？ もし一番の問題が、ベネズエラが例となって、世界にこれが広がることだとしたら、ヨーロッパでこの例を受け入れる者たちが出現すれば、アメリカが大きく反応するのでしょうか？

ピルガー： 重要なことは、ワシントンが、かつてベルトウェイ内部で（ワシントンの政治家間で——の意）“クレージー”と呼ばれたような、真の過激派によって支配されていることだ。これは 9・11 前からずっとそのようになっている。そのうち何人かは完全なファシストだ。アメリカによる支配を主張することが、彼らの隠さないゲームであって、ウクライナの出来事が示すように、彼らはロシアとの核戦争を本気でやる構えでいる。こうした者たちは、すべての正気な人間の共通の敵というべきだ。ベネズエラで彼らがクーデタを起こしたがるのは、ボリビアやエクアドルでやったような、世界の最も重要な社会改革を、ロールバックできないかと思っているからだ。彼らはすでに、ホンジュラスの人民の希望を潰してしまった。現在の、アメリカとサウディアラビア間での、石油価格切り下げの陰謀は、ベネズエラとロシアで、何か大きな混乱が起こるように意図されたものだ。

アルバート： アメリカの企みを、ベネズエラ内部のエリートたちの企みも含めて、ベネズエラ人民のために、挫くためには、あなたはどんな方法が最上だと考えますか？

ピルガー： ベネズエラ人民の大多数と彼らの政府が一緒になって、彼らの国が受けている攻撃について、真実を世界に伝える必要がある。世界中に今、動き出しているものがある。そして多くの人々が耳を澄ませている。彼らは、永遠に続く不安定、永遠の貧困、永遠の戦争、永遠の少数者支配を望んではいない。そして彼らは、主たる敵が誰であるかを知っている。どの国が、人類に対する最も大きな危険であるかを問うた、国際世論調査を見るとよい。大多数の人々が圧倒的に指差すのはアメリカであり、アメリカの多くの恐怖と転覆のキャン

ペーンだ。

アルバート：ベネズエラの外の、特にアメリカの左翼の人々の、さしあたっての責任は何だと考えますか？

ピルガー：これは質問が問題だ。その“左翼”というのは誰なのか？ それは、オバマのもっともらしい登場に魅惑されたが、彼が情報の自由や反対意見を犯罪化したために黙らされた、何百万というリベラルな北米人をいうのか？ それとも、ニューヨーク・タイムズ、ワシントン・ポスト、ガーディアン、BBCなどの言っていることを信ずる人たちのことか？ これは重要な問題だ。“左翼”が今ほど、議論すべき、誤って使われる用語であったことはない。私の感覚では、ラテンアメリカの、アメリカに支援された勢力に腹を立て、これと戦って生活している人々が、この言葉の本当の意味を理解したと思う——共通の敵を見定めると同時に。もし我々が彼らと主義主張を分かち合い、彼らの勇気の一部でももっているなら、我々は自分の国において、直接行動を取るべきだと思う。私の考えでは、まず初めに標的とすべきは、メディアの中のプロパガンディストだ。確かにそれは我々の責任であり、今ほどそれが緊急に求められる時代はない。